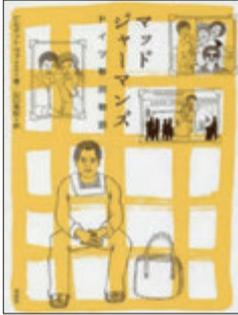




AGULI



巻頭エッセイ マッドジャーマンズ	三木 義一	p.2
特集 新入生にお薦めする本		
初期近代イングランドに現代を見る	笹川 渉	p.3
言語を学ぶこと、世界を知ること	猿橋 順子	p.3
本物のイノベーションとは何だろうか？	黄 晋二	p.4
学際的研究：1つのテーマを複数の学問領域からアプローチする	皆木 健男	p.4
あいだを生きる	大堀 研	p.5
死霊の世界	神戸 勉	p.5
言語と文法(またはスタイル)—— A と B の対話 ——	中川 辰洋	p.6
「海の手山の手ネットワーク(東北)」と古新聞でつながる		p.7
新型コロナウイルス感染症に関する大学図書館の対応について		p.8



『マッドジャーマンズ』
 ビルギット・ヴァイエ著
 山口脩紀訳
 花伝社 2017年
 (青 334.434/W1-1)

マッドジャーマンズ

前学長 三木 義一
 MIKI Yoshikazu

大学に来て時間が少しでもできると、ブックカフェにより、本の表紙や背表紙だけを眺めながら歩く。今どんなことが話題になっているかが一望できるし、自分の知らない言葉に気づき、それが思わぬ発見につながることもあるからだ。

その日は、少しコミック類も眺めてみたくなった。そこで、大学の反対側にある青山ブックセンターにもよってみた。コミックと言っても少年マンガではなく、もう少し大人向けの社会問題を扱ったコーナーをゆっくり眺めた。最初にサブタイトルが目に入った。「ドイツ移民物語」。ああ、ドイツに於けるトルコ人問題を扱ったんだな、と思った。ところが背表紙のタイトルは「マッドジャーマンズ」となっている。なんだろう？これまで聴いたことのない言葉だ。

私はドイツに3度ほど訪問したが、語学研修のためにはじめてベルリンに行った時はまだ東西に分裂していた。西と東を引き裂く壁、西ドイツに於ける移民政策としてのトルコ人の受け入れとそれに伴う問題は語学研修でも嫌と言うほど出てきた。だから、移民問題と言ったらトルコ人問題しか頭になかった。

ところが、その本を手にとってみると、表紙にはトルコ人ではなく、黒人が描かれていた。不思議に思い、中を見ると、1979年から1989年までモザンビークから契約労働者として移民してきた人たちの物語であった。東ドイツ政府は当時のモザンビーク左派政府と国家間協定を結び、労働力を補うためにベトナムから6万人、モザンビーク

から2万人も受け入れていたのである。

モザンビークからやってきた若者は、祖国では優秀な若者で、国家のため、家族のために異国で稼いで祖国を支えようとしていた人たちだった。しかし、受け入れるドイツ人の対応は冷たかった。仕事は一方的に決められ、住居も寮に限定され、女性は妊娠すると、強制帰国か中絶させられたそう。しかも、給料の60%は天引きされ、当時のモザンビーク政権に渡されることになっていた。その後、この政府は倒れているので、帰国しても賃金は戻ってきていないという。ドイツでも差別され、帰国して祖国でも差別されている彼らをマッドジャーマンという。

この本は、そうした過酷な体験をしたモザンビーク人の生涯を3人の若者に抽象化して描いている。絵は素朴で、最初はやや稚拙に感じながら読み始めた。徐々にこの素朴でシンプルな絵が、モザンビーク人の思いをずっしりと重く読者に伝えてくることに気づく。

国家に翻弄された若者達。ドイツについては、少しは知っているつもりだった自分が東ドイツに於ける移民問題を全く知らずにこれまで過ごしてきたことを恥ずかしくも思った。

書店や図書館で本を眺めていると知らないキーワードに接する。これがとても大事なのである。そこから新しい発見が出てくる。同じものばかり押しつけてくるPC検索では得られないこのような快感を青学生の多くが体験して欲しいと心から願っている。

(名誉教授 元法学部教授 税法)



初期近代イングランドに現代を見る

『楽園の喪失』
ミルトン著 新井明訳
大修館書店 1978年
(青 931.3/M1-7)
(相 931.3/M1-7)

笹川 渉
SASAKAWA Wataru

青山学院の源であるメソジスト教会の祖、ジョン・ウェスレーにも影響を与えたジョン・ミルトン。ミルトンの代表作『失楽園』(Paradise Lost)は、1667年に出版された叙事詩です。元の話は旧約聖書の『創世記』で、人類の祖先であるアダムとイヴが、蛇に姿を変えたサタンに誘惑され、神との約束を破り果実を口にしました結果、エデンの園から追放される経緯を語るものです。ミルトンはこの短い物語を、1万行を超える一大叙事詩に仕上げました。

しかし、『失楽園』には聖書には書かれていないエピソードが多く盛り込まれており、これが作品の魅力を一っそう大きなものにしてしています。例えば、力強い弁舌を振るうサタン、アダムに天動説の宇宙を説く天使ラファエルや、エデンで庭仕事に精を出し、墮落後は夫婦喧嘩をしてしまうアダムとイヴの姿など。サタンの弁舌は、王党派と議会派が血で血を洗ったイングランド議会とともに現代の党派争いも想起させます。ガリレオへの言及は、当時新科学が発展した事実とともに、新しい知に向き合うわたしたちの姿を提示しています。『失楽園』は初期近代の百科事典でもあり、皆さんと同じように迷い考えるサタンやアダムとイヴの姿に、生きるためのヒントが見つかるでしょう。



『失楽園』
ミルトン作 平井正穂訳
岩波書店 1981年
(青 931.3/M1-17/1 ~ 2)
(相 931.3/M1-17/1 ~ 2)

(文学部准教授 初期近代イギリス文学、イギリス詩)

言語を学ぶこと、世界を知ること

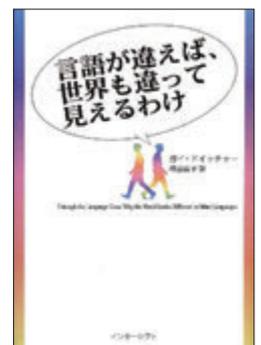
猿橋 順子
SARUHASHI Junko

世界には7000以上の言語があります。そのうち6500語の話者は、世界人口の5%で構成されているとのデータもあります。つまり話者人口で見ると極めて小規模な言語が無数にあるということになります。

そんなに沢山の言語があるなんて非効率だと考える人もいるかもしれません。世界中がひとつの言語で統一されたら、さぞ便利だろうと夢想する人もいません。

しかし、これまで数多くの言語学者が、ひとつひとつの言語の中に、その話者コミュニティが培ってきた物の見方や思考様式が埋め込まれていると考え、研究を重ねてきました。やや大げさな言い方をすれば、言語の数だけ世界観があるということになります。本書はそうした研究の成果を分野別に紹介しています。原著(英語)と日本語訳を読み比べてみるのも楽しいでしょう。

新入生の皆さんは、これまでも英語をはじめ外国語の勉強に一生懸命に取り組み、これからも継続していくことと思います。あるいは日本語の文章表現力も鍛えていくことでしょう。同時に、大学での学び、留学生との出会い、長期休暇を利用した外国旅行、インターネットを介したコミュニケーションなどをきっかけに、新しい言語と出会い、その世界観に触れていく楽しみを見出してください。



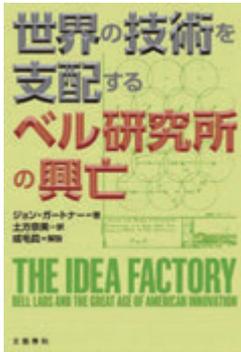
『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』
ガイ・ドイッチャー著
椋田直子訳
インターシフト 2012年
(青 801/D4-1)
(相 801.03/D65G)

Guy Deutscher. *Through the Language Glass: Why The World Looks Different In Other Languages* (青 410/D19-1)

(国際政治経済学部教授 社会言語学)

本物のイノベーションとは何だろうか？

黄 晋 二
SHINJI KOH



『世界の技術を支配する
ベル研究所の興亡』
ジョン・ガートナー著
土方奈美訳
文藝春秋 2013年
(青 547/G2-1)
(相 547.02/G37S)

マイクロソフトの創業者の一人であるビル・ゲイツはかつて「タイムマシンに乗ることがあったら、最初に降りるのは1947年12月のベル研究所だ」と語った。彼は、そこでトランジスタが産声をあげる瞬間に立ち会いたいと思ったのだろう。トランジスタは、今や日常生活に欠かせないスマホやPCに搭載されているLSI中の主要デバイスであり、ベル研究所のショックレー、バーディーン、ブラッテンの3人によって発明された。彼らは、この功績により1956年のノーベル物理学賞を受賞している。

ベル研究所は、米国の電話会社AT&Tの研究所である。絶頂期の1960年代には世界トップレベルの研究者を含む1200人もの博士号保有者が最先端の研究開発に取り組んでおり、トランジスタのみならず、携帯電話、GPSなど、現代社会に不可欠な様々な技術がここで産まれた。本書は、ベル研に世界中の天才が結集した絶頂期から、巨大化が招いた分割による衰退までを詳細に描いている。前述した3人の研究者をはじめ、情報理論（情報を0と1のビット列で表現する理論）の考案者である奇人クロード・シャノンなど、天才たちの人間模様が鮮やかに描かれており、革新的な技術が産み出される瞬間の光と影を映し出した良書である。昨今のイノベーションが土台としている「本物のイノベーション」がここにある。

(理工学部教授 材料・デバイス工学)

学際的研究：1つのテーマを複数の学問領域からアプローチする

皆 木 健 男
MINAKI Takeo



ダイヤモンド社 2008年
(青 338.1/T18-1)
(相 338.1/TA75M)

社会情報学部は、広い視野で、多様な背景を持つ他者とコミュニケーションをとり、社会の複雑な問題の解決に貢献できる人材の育成をめざしています。社会問題は、特定領域のみでは解決できない場合があります。つまり、ある問題の解決には、学際的なアプローチが必要なのです。

ここでは、そんなアプローチの重要性を投資から考えている『まぐれ—投資家はなぜ、運を實力と勘違いするのか/ナシーム・ニコラス・タレブ著(望月衛訳)』を紹介します。著者はトレーダーでありその経験から、ファイナンス理論や確率論の専門家であっても投資には失敗する事実を、心理学、統計学、歴史、芸術といった異なる領域から、シニカルに説明しています。なぜ学際的なアプローチが必要とされているのか、ヒントをあたえてくれると思います。

また、著者は“これはエッセイである”さらに“楽しむのために書かれた本であり、楽しむために読んでもらえる本、そして楽しんで読んでもらえる本を志している”と言っています。よって、学術書ではありません。手にとって読み始めるハードルは低いと思います。ファイナンス未学習のみなさんには十分難しい内容ですが、面白いと思ってくれる学生がいてくれることを願います。

(社会情報学部准教授 ファイナンス)

あいだを生きる

大 堀 研
OHORI Ken

渡辺京二は1930年生まれ思想家・評論家です。数多くの著作を執筆しており、2019年にも新しい評論を発表しました。扱っている題材は、江戸時代の日本や水俣病から、ファンタジー小説までと多様です。ですがそれら幅広い著作の多くには、近代の批判的検討という問題意識が共通しています。

近代の批判といっても、前近代を一方的に称揚するような単純なものにはなりません。『なぜいま人類史か』の中には、「(人は)群れを求めくせに、一方で群れから離れた強い衝動を持っています」という記述があります(洋泉社新書2007年版、24頁)。人間を、前近代的な共同性への志向と、近代的な個の自由への志向の両方をあわせもってしまう、いわば否応なく「あいだを生きる」存在として描いています。人間の本質を鋭く捉えているといえるのではないのでしょうか。

どちらか一方を選び取ってしまうことができれば楽なのかもしれません。どっちつかずでいると、なにかの度に判断に迷ったり、態度が定まらなかつたりする恐れもあります。しかし、「あいだ」にあることの自覚は、むしろそれこそが、思考を開始し深めるきっかけになるはずで、これから学問を始める皆さんに、ぜひ一度、渡辺京二の著作に触れていただければと思います。



渡辺京二著
洋泉社 2007年
(相 304/W46N)

(コミュニティ人間科学部准教授 地域社会学)

死霊の世界

神 戸 勉
KANBE Tsutomu

『死霊』は、埴谷雄高が五十年余の歳月をかけて取組んだ未完の長編小説です。吉本隆明はこの作品を「戦後文学の金字塔といわれながら完読した人の殆どいない難解小説の極北」と言っています。『死霊』とは一体どんな小説なのでしょう。関連本『埴谷雄高 独白「死霊」の世界』によれば、「長編小説『死霊』は悪徳政治家を父に持つ四人の兄弟(三輪高志、三輪与志、首猛夫、矢場徹吾)の物語である。四人はイギリスの詩人スウィンバーンの詩にあるバッド(悪)、サッド(悲哀)、グラッド(喜び)、マッド(狂気)を体現しており、この四人の兄弟が一人ひとり内面を吐露する



埴谷雄高著、NHK編
日本放送出版協会 1997年
(青 910.28/H4-13)

ときがこの小説の山場となる」となっています。なんだか面白そうでしょう。ミステリー小説のような第一章冒頭の文章には思わず引き込まれてしまいます。ところが少し読み進むと観念的で難解な対話や独白に阻まれて、脳内疲労を発症、パタンと本を閉じて積読三十年となってしまうのです。五十年かけて書かれた小説なのだから五十年かけて読んだっていいじゃないかななどと言いつつ、本棚からの出入れを繰り返している人がたくさんいます。さて皆さんはこの難解小説『死霊』、挫折しないで完読できるでしょうか。ぜひ挑戦してみてください。



講談社 2003年
(青 913.7/H15-9/1~3)

(学術情報部長)

言語と文法（またはスタイル）

—— AとBの対話 ——

中 川 辰 洋
NAKAGAWA Tatsubiro

- A：「君ですか、ボードレーリアンは？ 大体はB君から聞いていますが、テキストを読むのと並行して詩を朗読したレコードを聴いて、1カ月ほどしてからまたお出でなさい。40篇は暗誦できるようになっているはず。院進学はその時話しましょう」。正論も正論！ 言葉に窮しました。
- B：Y先生らしい言いようです…でも、本当に40篇以上も暗誦してきましたものね。
- A：すでに20篇ほど暗誦していましたし、暗誦はビートルズの歌詞で訓練していたようなものです。本題はそのあと。「語学と文学の違いって解かりますか？ 例えば、a、i、u、e、oの5つの母韻は、それぞれ短、長の韻のほか、鼻母韻など普通4つか5つあります。これに喜怒哀楽を考えると1文字につき20を超えます。英、仏、独などの語学の学習では当座5つの韻で足りませんが、文学はそうはいきません」ってね。
- B：シャーロック・ホームズじゃありませんが、基本ですね。演劇の世界もそうです。
- A：音楽界も。瀬祭書屋の意に相違して、「啼いて血を吐く」のは不如帰だけではない。
- B：李商隠、いや子規ですね。
- A：BさんはY先生の門下生だし、学生諸君もそれなりに優秀だろうから、Y先生の教授法でいけるような気がする。ぼくは勤め先で、以前ボードレーリアンを研究したいという学生に出会ったけれど、文学の器じゃない。按ずるに、口をつけて出てくる詩は片手に余るでしょう。
- B：うちもさして変わりませんよ。語学を少しかじって小説を数冊読めば、文学をやってるって気になっちゃうんでしょうね…
- A：でも、Bさんのところは、「西洋古典」がありますね。そのお蔭で、ギリシャ語のできないギリシャ哲学の教員やラテン語のできない思想史家や美術史家なんていないでしょう？
- B：Aさんがなぜ経済学なのかいまだに分からないけれど、ご著書でラテン語があれだけ飛び交っているからには、Y先生の影響があるのでは？
- A：あります。ついでに言うと、詩歌を捨てた訳ではありません。
- B：「言語と文法」という表現もAさんらしい。
- A：いや、あれはテュルゴーの、です。「言語」とは事物や事象の概念や定義、「文法」とはそれらを使いこなす手順や方法です。ただ分野によってスタイルが違う。例えば、哲学は帰納的、経済学は演繹的、というように。哲学は不人気だけれど、いしいひさいちの『現代思想の遭難者たち』くらいは読んでほしい。演繹法の入門書として、トレメインの“修道女フィデルマ”シリーズを推しています。
- B：確かに、フィデルマは“演繹の女王”と呼ばれますね。晩年は碑文文芸アカデミーの副会長を務めた“経済学の父”テュルゴーの研究者ならではの物言いです。きょうはいい勉強をしました。



いしいひさいち著
講談社 2016年
(青 133/17-1)
(相 133/175G)



修道女フィデルマ短編集
ピーター・トレメイン著
甲斐万里江訳
東京創元社 2009～2012年
(青 933.3/T35-7～9)

「海の手山の手ネットワーク（東北）」と 古新聞でつながる

はじめは東日本大震災（2011年3月11日）の少しあと、木村光彦先生[現名誉教授、国際政治経済学部教授(当時)]のひと言でした。震災後の苦境から一歩踏み出すために模索する「海の手山の手ネットワーク」を知りました。

図書館の新聞の行方

日本語、外国語さまざまな新聞がありますが、各社の記事を併読するには紙媒体が便利で新聞社の報道姿勢の違いも比較しやすく、多くの方が利用されています。毎日発行される新聞はやがて膨大な量になります。さて、図書館の新聞はこの後、いったいどうなるのでしょうか？新聞縮刷版（紙面の原版サイズを縮小し書籍にした出版物）が発行されると、直近の新聞は一つの役目を終えます。古新聞は、作業用の資材として福祉施設に送られ、英語学習に使いたいという希望者にはリサイクルで引き渡され、次の役目を担っていきます。



図書館の古新聞

「海の手山の手ネットワーク」と「新聞バッグ」



震災後、鳴子温泉（宮城県内陸部）に避難していた沿岸部の人たちの、一歩踏み出すために「仕事がしたい」との思いがきっかけとなり、内陸部の“山の手”と沿岸部の“海の手”がともに「手仕事」で経済復興を目指す“宮城県沿岸部～山間部の助け合いネットワーク”＝「海の手山の手ネットワーク」が生まれました。

機械を必要とせず場所も選ばない「手仕事」を求め行き着いたのが「新聞バッグ」の製作・販売でした。そして、古新聞を求めるニュースに木村先生の奥さまが気付かれ、図書館委員を介し図書館にもたらされ、古新聞の提供が始まりました。

“海の手（沿岸部）”の人たちが作り手となり、“山の手（内陸部）”の人たちが販売し、販売価格の50%を作り手に支払うシステム。二地域の協働により、地元で行う手仕事で経済復興を目指した取り組みです。

「新聞バッグ」によって前向きに生きる気持ちを取り戻された方がおられ、図書館で利用された新聞が東北の人たちの復興のお役に立ったと伺い大変嬉しい思いです。こうして、東北の方々々と本学図書館の利用者は古新聞でつながり、9年が過ぎた今も古新聞の送付は続き、季節のお便りを交わす関係も続いています。



お送りいただいた「新聞バッグ」（表紙写真も）

本学の図書館が「海の手山の手ネットワーク」を介し、被災地の方々々とつながっていることを、この機会にぜひ利用者の皆さまに知っていただければと思います。

（青山キャンパス本館）

【新型コロナウイルス感染症に関する大学図書館の対応について】

大学図書館は、後期授業期間中（9月14日～2月2日）も感染防止策を講じたうえで、在籍者の皆さまへのサポート、在学生の皆さんの学習・研究の手助けとなるような各種サービスを継続します。安全な閲覧環境を提供し、学習・研究に必要な情報資源を広くご利用いただくことを最優先に考えております。状況に応じ、図書館 Web サイトに情報を掲載・更新いたしますので、折々にご確認のうえ、どうぞご活用ください。

以下に、全在学生対象のサービスの一部をご紹介します。（情報は9月14日時点のもの）

最新情報は図書館 Web サイト <https://www.agulin.aoyama.ac.jp/> をご覧ください。

● 「事前予約制」による限定的な開館（状況によって変更・中止の可能性があります）

「密」を避けるため「事前予約制」により、同一時間内の利用人数を制限した限定的な開館

開館日時：9月14日（月）～2021年2月2日（火）

月～土 9:00～17:00

対象者：大学院生、全学部生（専任教員、非常勤講師の方は事前申込不要）

利用時間：第1部 9:00～11:30 ※原則として1人1日1枠

第2部 11:45～14:15 ※時間入替制により、館内の清掃・整備等を実施いたしますので

第3部 14:30～17:00 利用終了時刻には速やかにご退館ください。

人数制限：各回50名（状況により増やす可能性あり）

申込方法：図書館 Web サイト MyLibrary の「講習会参加申込み（大学）」から。

● 配送サービス（状況によって変更・中止の可能性があります）

大学および短大図書館所蔵資料のご自宅への配送サービス（大学負担〔元払い〕）

実施予定期間：① 9/14（月）～9/30（水） ② 10/1（木）～10/31（土）

③ 11/2（月）～11/30（月） ④ 12/1（火）～12/22（火）

⑤ 2021年1/8（金）～2/2（火）

冊数・期間：各回、図書3冊（貸出期間60日）、かつ、文献複写5件の配送依頼が可能

※返却期限を過ぎた図書をお持ちの方に対しては、新たな貸出ができません。

申込方法：（図書）Web サイト AURORA-OPAC で検索し、書誌詳細画面の「取寄・予約」ボタンから。

（文献複写）Web サイト MyLibrary の「レファレンス申込み」の「質問申込画面へ」から。

返却方法：① 来校時に、図書館あるいは図書館前の返却ポスト（開館時間中も返却可）に返却する。

② 所属キャンパス図書館宛に返送（郵送料本人負担）する。

③ 来校が困難な場合（遠隔地に居住、体調不良など）、指定期間中に着払い（大学負担）にて返送する。

※着払い返送については、後日改めて告知します。指定に沿わない場合は自動的に本人に返送されるため、十分注意のこと。

● 自宅や学外から使える図書館資料

図書館 Web サイトに以下の情報をまとめて掲載しています。自宅や学外から多くのコンテンツが利用可能ですのでご活用ください。

1) 図書館で契約している電子ジャーナルやデータベースを自宅や学外から利用する方法

2) 資料の探し方の案内

3) 期間限定で図書館がトライアルしている電子ジャーナルやデータベースの情報

4) 期間限定で各出版社や学会がオープンアクセス（無料）で公開しているオンライン資料など（外部のサイト）

表紙写真「海の手山の手ネットワーク」作成の新聞バッグと青山本館2階閲覧室
撮影／提供 青山学院大学写真研究部

編集後記

COVID-19の影響によって図書館の利用が制限され、図書館を自由に利用できないことがどれほど不便かを思い知った。その一方で、図書館の豊富なデータベースに非常に助けられた。学生の皆さんには、この機会に学んだデータベースの利点を活かしながら蔵書を用いて、大学での学びを充実させてほしい。（図書館報編集委員長 酒巻修也）

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第108号 2020年9月14日発行

編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当

発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472

<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>